

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡市東区下原2丁目15-31		
自己評価作成日	平成25年2月11日	評価結果確定日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&ji_gyosyoCd=4090800220-00&PrefCd=40&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の4月で開設1年を迎える新しい施設です。住宅街の中でありながら広い敷地と自然環境に恵まれており四季の移り変わりを感じられる施設です、公民館との交流も積極的に行い地域での年中行事にもお誘い頂き入居者様方も大変喜んで頂いています。
当経営者が望んでいる幸せな笑顔、「ハッピーすまいる」を介護理念とし利用者様、ご家族、職員が幸せな毎日が送れるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東区下原の住宅街の中において、広い敷地の中に小規模多機能施設と併設され、「グループホーム香椎下原」はまもなく開設から1年を迎える。高台の麓にあり、裏の坂道を上ると、上からは海も望め、見晴らしは素晴らしい。入口には桜が植えられ、隣接した公園にも春には桜が咲き誇る。福岡市のモデル事業として開設され、住みやすく、サービスのしやすい間取りと、防災設備も完備されている。母体法人は住宅型の有料老人ホームや訪問介護、看護もしており、行事の際などに交流も行われる。
地域との交流も盛んで公民館長や地域ボランティアの来訪もある。ワゴン車を2台所有しているの、全体での外出行事で買物なども楽しんでいる。夏祭りは小規模多機能とも合同で地域を招いて行い、近隣の子供達も訪れ盛況であった。これからも長く地域との関わりをもっていき、福祉支援の中心となることが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月にオープンしたばかりで完全に出ていないわけではないが、毎朝朝礼時に唱和し管理者と職員はグループホームの意義を確認し日々実践に活かせるように取り組んでいる。	利用者の満足につながるよう、開設時に職員と話し合っ作られた独自の理念があり、事務所や玄関に掲示して身につくようにしている。「笑顔で」ということを心がけて、皆が楽しく過ごせるようにし、ケアに関しての注意も理念に立ち返って行っている。会議の議題でも取り上げ、利用者本位のケアに活かしている。	利用者それぞれのしたいことや、今までの生活の延長で満足してもらっているかなどふまえて、今のメンバーでもう一度見直して、理念を更に良い物にしていくことが望まれる。また地域との関わりも含めて取り組むことも期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として町内会、公民館の行事（ダム祭り、文化祭、掃除、しめ縄作り、どんど焼、等）利用者様と一緒に参加させていただいたり、ご近所のボランティアをうけたり、ホーム主催の夏祭りには多くの地域の参加もありホームとしては孤立する事なく、常に地域に対して情報を得る努力をしている。	夏祭りは併設の小規模多機能と合同で地域を招いて行い、地域ボランティアの手伝いや近所の子供達も立ち寄り盛況である。町内会便りも回覧されており、利用者と一緒に回している。町内清掃や文化祭などの地域行事にも参加し、日常的にも気軽に挨拶を交わすなど、利用者とともに関わりを深めている。	夏祭りや文化祭などの関わりをさらに深いものとしていくために、今後は夏祭り案内を地域に広報したり、文化祭に出展するなどして、地域の理解を広げ、存在感を出していくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議により、認知症の理解を深めていただく為日常生活状況や事故報告等を報告させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回利用者様の生活の場であるリビングで開催し近況報告を行い地域の皆様、包括支援センターの職員を交え質疑応答等で意見交換を行い、サービスの向上を目指しています。	併設の小規模多機能と合同で行い、公民館長や市の職員など幅広く参加され、質問やアドバイスなど活発に意見が交わされている。特に地域からの意見は多く、運営に活かされている。外部評価結果も開示し、議事録も閲覧出来るようにしてあった。	参加者の幅は広く、多数参加されているが、利用者家族の意見が少ないので、参加を促していき、参加者から意見を出しやすい雰囲気を作っていくことに期待したい。また、議事録の報告を参加不参加問わずに行う事で、取組みを広く知ってもらうことも望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に福岡市の在宅サービス指導係、公民館長、包括のセンター職員に参加して頂き助言等を受けるなどして協力関係を築くようにしている。。	市の担当部署とは電話やFAXなどで相談することが多く、保護課からは来訪があったり、訪問してのやりとりもされている。何かあったときもすぐに報告をするようにしており、それぞれの担当者と気軽に連絡できそうな関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを設置し内部研修にて言葉や行動制限の拘束についての話し合いを行い全職員で共有化を図っている。玄関の施錠は防犯上夜間のみでセンサー対応している。	外出願望のある方もいるが、玄関は施錠せずセンサーと見守りによって対応している。ベッド柵なども転落の危険がある場合のみ最低限の利用に留め、センサー利用などで負担がかからないようにしている。毎月の内部研修の中でも身体拘束に関して取り上げ、職員が持ち回りで発表し、身体拘束排除の方針を共有している。	原則、身体拘束をしない方針を共有しているが、今後も更に理解を深めていくために、言葉や投薬による拘束なども含めた幅広い研修と、万一の離設に備えて近隣との協力などを進めていくことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中やミーティング、又全体会議にて内部研修として取り入れ知識の共有に努めている。		

自己・外部評価表 (GH香椎下原) H25.3.25修正

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度利用の入居者がいる事で職員も身近に感じており全体会議において、内部研修として勉強会を開いています。2月中旬に外部研修参加予定です。	外部研修と内部研修によって事業所内での理解を深めており、マニュアルやインターネットからの情報をつかって研修に役立てている。関係者とも協力して利用者の支援を行っており、職員間でも利用者の情報を共有し、支援している。	研修や勉強会を充実させるために、地域包括や社協などの関係機関にも協力してもらったり、パンフレットやポスターによって情報提供をしていくような取組みに今後は期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際利用者やその家族の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行い、本人、家族からの質問に答えホーム側の意向も十分に説明を行い納得いただいた上で契約するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱設置、外部機関のポスターを掲示している。又運営推進会議にご家族に参加して頂き意見を述べていただいたり、面会時に意見要望があった際には対応しご家族の方が安心して頂けるように努めています。	面会時に要望は聞き取り、介護記録や連絡ノートで情報共有している。来訪が少ない方にも最低月1回は連絡をとっており、請求時にも一筆お手紙を添えたりしてコミュニケーションを図っている。利用者・家族からの意見は全体会議で申し送り、話し合わせ、口頭で結果も報告している。	事業所便りへの取組みが今まで出来ていなかったもので、アルバムを利用した報告などで、月1回の報告を充実させていくことに期待したい。また、アンケートや外部相談員の活用などで意見を聞く仕組みをつくっていくことも今後望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや定期的に社長同席の全体会議を実施し意見や提案を聞く機会を設け社長同席での全体会議では問題点が早期に解決が図れています、又必要時個別相談を行っている。	毎月の全体会議にはパート職員も含めて全員参加している。職員の意見で脱衣所の暖房機の設置や、浴室の手すりなど迅速に対応につながってきた。朝礼時や申し送り時にも話し合い、連絡ノートで情報共有もしている。管理者とは気軽に相談し、社長にも管理者を通して要望を上げており、サービスの改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する姿勢の向上、スキルアップの研修等に力を入れており、仕事の支障のない限り希望の休みには答えています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別、年齢などを理由に採用条件から排除せず定年年齢も70歳までとなっており職員が安心して働ける様に配慮している。採用後は資格の取得や研修により、其々の能力を発揮できるようにしている。	職員は20～60歳代で男性職員もあり、それぞれが係を決め役割分担をして、能力を活かしている。事業所から研修案内も行い、業務として参加してスキルアップに取り組むほか、勉強会も担当を持ち回りでを行い、技能向上の意欲を高めている。シフト調整も全体で協力し合っており、休憩時間やスタッフルームの確保にも皆で協力して働きやすいように取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当ホームの理念「個人個人に合わせた介護を実践していきます」を掲げていますが、ご本人の出来る事を引出しその方に応じた関わりを又尊厳を大切にするように日頃の業務中や会議中で伝えている。	1月の内部研修では人権学習について行い、外部研修にも参加されており、伝達研修も行っている。理念に基づいて利用者個人個人を大事にしたケアを心がけ、日頃からも管理者や職員同士で気づいたときにその場で注意をするようにしている。	

自己・外部評価表 (GH香椎下原) H25.3.25修正

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画表を作成し外部研修の参加、内部研修の実施を行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新設なのでグループホーム協議会未加入で有るが申込済みである。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関しては居宅支援、医療機関の相談員、家族からが殆どである為、本人様からの意見を聞き取るには不十分である為入居後には早期に本人自身からの声や表情等で受け止める努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時、本人面談時又入居申し込み時に相談、要望等に耳を傾け不安等解消出来るような関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今何が必要か本人、家族と話し合いし訪問診療、デイケア、訪問歯科、訪問マッサージ利用を含めたケアプランを作成しサービスの導入を開始している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム職員には若いスタッフ、男性スタッフもあり、調理面など未熟なので、そんな時大先輩である利用者に調理の仕方を教わったり、手伝っていただいたりしている。又昔の話など聞かせてもらいながら年齢層の幅の利点を生かすような関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームはご家族の面会の回数が多く、又外出、外泊もあり、他科受診等無理のない範囲でお願いしたり、利用者が家族と関わることで安心できる配慮とともに家族も一緒に本人を支えていく関係を築いていけるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのデイケア利用の継続、かかりつけ医の受診、馴染みの美容室利用、又時々帰宅等で関係継続の支援に努めている。	入居前からの馴染みの場との関係を継続してもらい、流れを断ち切らないように、家族とも協力して美容室や病院などへの支援を行っている。知人の来訪や地域の文化祭への参加で顔なじみに会ったりもしている。单身の方も外に連れ出すようにして、関係が疎遠にならないように働きかけている。	

自己・外部評価表 (GH香椎下原) H25.3.25修正

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事参加等苦手な方にスタッフではなく気の合った利用者が声掛けすることにより、にこやかに参加されたりすることがあるので、職員はそのような関係を大事にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用解約後も入院中の方などご家族に連絡し近況をお聞きしたりしている。又必要に応じて相談や支援が出来る体制作りはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に思いや行きたいところや食べたい物等を聞き取り要望に応えるようには考えていますが内容によっては家族の協力が必要になってくるので全てが実現出来ているわけではないのが現状です。	入居時と更新時にアセスメントを行い、入居前の関係者や、現場からの意見、家族の意見などからも思いを聞き取っている。ケアプランの1表は、家族に要望などを自分で記入してもらうことでプランに反映させている。日頃のケアでも利用者との会話や、様子からも思いを読み取り、連絡ノートを使って事業所で共有している。	利用者の状況をさらに細かく読み取り、アセスメントを補完していくために、現在使っている様式の改善を計画中とのことであり、取組みに期待したい。また、本人と家族の要望のすり合わせの相談が今後も行われていくことが望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前からの生活の流れとしてデイケア利用を継続したり、ご家族様に情報を提供して頂きなるべくこれまでの生活を継続しながらホームでの生活に慣れて頂くように心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日頃の観察において個々の現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては本人、家族、職員、必要時主治医同席、又は往診時に聞き取りにて本人家族の希望や意見やアドバイスを受け話し合いを行い介護計画を作成しており、利用者の状態変化に合わせその都度見直しを行っている。	ケアプランと記録は同じファイルで参照できるようにし、毎日のプランの実施を紐付けて、毎月のモニタリングにも役立てている。申し送りやミカンファなど職員同士で話し合う時間は細かく設けるようにしており、情報を共有している。ケアプランの作成は家族にも協力してもらい、見直しは3ヶ月の定期と、随時必要時に行っている。	現在は部屋割りでの職員の担当を決めているが、今後はさらに担当者の関わりを深めていき、モニタリングなども現場に近い職員が分担できるような担当制の確立が期待される。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状況は介護記録にケアの実践、結果は毎日のモニタリングチェック表に記録を行い連絡ノートを活用し情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己・外部評価表 (GH香椎下原) H25.3.25修正

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージ、外部デイケア利用、訪問理美容、皮膚科往診取り入れ様々なニーズに対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館との交流、ボランティアの受け入れ、利用者様を交えた消防訓練等を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の健康管理と共に協力医療機関の定期的な往診、24時間の医療連携を取っていますが、本人、ご家族の希望で馴染みの訪問歯科の往診を受けている利用者もいらっしゃる。	以前からのかかりつけ医は継続し、家族の支援のもと通院介助をしてもらっているが、必要があれば事業所からも支援を行っている。受診報告はその都度連絡をとっており、情報を共有している。提携医の往診は2週に1回あり、緊急時も迅速に対応されており、歯科往診も2週に1回ある。医療支援は基本的には管理者か看護師が担当する。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の看護師とは、当ホームの看護師が中心となって、気軽に相談し合える関係を築いており、助言やアドバイスを受けながら支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ馴染みの医師や看護師のいる往診医(協力医療機関)の病院に入院して頂く事で病院関係者との情報交換がしやすく管理者が定期的に面会しソーシャルワーカーと常に連絡を行い出来るだけ早期に退院して頂くように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は対象者はいないが、今後ホームとして(出来る事、出来ないこと)利用者、家族と話し合いを行って行きたい。	本人、家族とも相談の上、出来るだけの事はしていきたいとの希望はあり、提携医とは24時間連携して、何かあった際の協力関係が作られている。主に看護師が提携医との連絡調整を行っている。	終末期に向けた支援を行いたいとの考えがあるので、今後は職員全体で話し合っ、事業所の指針を定めて、本人・家族の意思の確認や、ケースの発生に備えた準備が徐々に進められていくことに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	第1回目の消防訓練時に消防職員による応急手当、初期対応、AEDの使用方法(当ホームではAED設置している)心臓マッサージの講習は全員参加しているが今後も救命救急等の講習に積極的に参加して行きたい。		

自己・外部評価表(GH香椎下原)H25.3.25修正

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間想定で2回訓練を行っていて避難方法は大体身についていると思う。地域の方々には運営推進会議にて地域代表者には地域の人の参加依頼しているが今のところ参加の実績はないので、これからも働きかけて行きたいと思う。	スプリンクラーも設置しており、防災設備は完備されている。誘導路も確保され、2階からもテラスを通じて避難が出来る。消防署と合同で総合訓練を行い、職員も避難手順を理解している。AEDも設置し研修なども行い、緊急時の対応に備えている。	事業所内での災害対策はよく行われているので、引き続き、地域の参加を呼びかけたり、地域防災の情報収集を行い参加をしていくことで、協力関係が作られることに期待したい。公民館などと協力して備蓄物の確保等が進められることも望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳に配慮しプライバシーを損ねないような優しい言葉かけに心がけている。	入浴や排泄介助時の羞恥心にも配慮し、声かけのやり方など、管理者が気づいたときに指導している。利用者への呼びかけ方も、時と場合に応じて使い分け、敬意と親しみが保てるように気をつけている。近々開かれる全体会議でもプライバシー保護を扱う予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と気軽に話せる関係を築き希望の表出や自己決定が出来るように職員からの働きかけを行ったり又相手に合わせた説明を行い、納得しながら暮らせるよう支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大体決まっているが、当ホームの理念「個人個人に合わせた介護を実践していきます」にあるように利用者様の状態は把握しているので、その方に合った対応をし無理強いせず、希望に沿った支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容が毎月1回ある。居室に洗面台があり鏡を見る機会が多く整髪や髭剃り等おしゃれが出来るように支援している。外出する際は洋服を選んでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回はパン食にしたり、行事食を取り入れたり、利用者の希望で「寿司、ラーメン等」ホームで頂けないものは外食レクを利用している。毎食利用者と職員と一緒に調理、下準備、下膳等利用者の能力に合わせて行っている。	専門業者によるメニューと食材の管理がされ、職員が調理しており、利用者も出来る事は手伝っている。検査担当が同じ物を一緒に食べて、食事の感想や食材の切り方、調理の仕方なども細かくフィードバックしていた。食べたい物の希望などは外食レクで対応し、行事食や差し入れの活用などでメニューにも変化をもたせている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表で確認し必要量は確保出来るようにしている。食事はメニュー、材料は外注でカロリー計算されており作るのはホームなので、その方に合わせた量、形態で対応している。		

自己・外部評価表 (GH香椎下原) H25.3.25修正

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに注力するとともに歯科医、歯科衛生士の訪問により、口腔ケアや磨き方の指導や治療が受けられるように支援をおこなっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに記録を行い個人個人に合わせた時間帯で声掛け誘導を行っている。又ご本人のしぐさをキャッチし、さりげなくトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	全職員で排泄チェック表を見て記録し、看護師が管理して、気づいたことなどを伝えている。水分摂取量などもまとめてチェック表はわかりやすく整理されている。ケアの改善などは気づいたときにすぐに話し合い、随時改善している。介助も周りに配慮してさりげない支援を心がけ、拒否のある方にも無理強いせず、時間帯を変えたりして対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のコップ1杯の冷水飲用や軽体操や散歩など体を動かす働きかけを行い自然排便が出来るように支援している。又主治医と連携取りながら必要時薬を使用する事もある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂は沸かしており週3回は入浴出来るようにしている、予定表はあるが本人の希望に沿っている。又入浴剤で色や匂いを楽しんでいただいている。	昼前から午後にかけて入浴してもらい、午前と午後でお湯を張り替えて清潔を保っている。基本は週3回だが、毎日の希望や曜日の振替などには対応している。その日の状況や希望を聞きながら対応し、入浴剤も毎回使用して入浴を楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はないが、音、照明を少しずつ落としながら、安眠できるように配慮し、なるべく薬に頼らないように支援し日中も自由にソファや居室で休息できるようにしている。又眠れない時はホットミルク等を提供している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬表をファイルしており、詳細は職員が確認できるようにし最後の飲み込み迄確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自出来る事を手伝っていただき外出や買い物等で気分転換が出来るように支援している。		

自己・外部評価表 (GH香椎下原) H25.3.25修正

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天気具合によって外出の予定日でもなくとも、ドライブがてらのコーヒータムに出かけたり又デイケアや家族協力のもと外出されることもあります。	天気の良い日は散歩や、ドライブがてらに複数人で志賀島などへの外出を楽しんでいる。予定になくともその日の希望で外出したり、近隣の喫茶店やケーキ屋などにも行っている。ワゴン車もあり、多人数での外出も行え、車いすの方も同じように外出されている。月1回は全体での外出行事も行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現入居者様のレベル的に殆どの方の金銭管理はホームが行っているが金融機関に本人様と出向いたり買い物に行ったりしている。又本人が金銭管理が出来る方は家族がお小遣い程度に渡されているようだが買い物される事はない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方がおられ、常に充電切れにならないように、電話の取次ぎや手紙の投函など何時でも家族や大切な人との関係が継続できるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が広く全体が明るくカーテンにより光や温度の調整をしたり、童謡やクラシック、懐メロ等の音楽を耳障りにならない程度に流したり、季節に応じた壁面工作、お花を飾ったりして工夫している。	リビングは広く、日差しがよく差し込み、窓の数も多く、廊下などでもどこにいても明るい。利用者の作品や行事の写真なども飾られており、ゆったり出来る家庭的な空間が作られている。感染症予防の設備もあり、事業所内は清潔に保たれていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに腰かけて利用者様同士談話されたり、玄関の椅子に一人で腰かけられたり思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の状態を見ながら家族と相談しながら可能な範囲で危険がない馴染みの家具や布団、写真や小物等を持ち込んで頂くことで違和感なく居心地よく過ごせるように工夫している。	介護ベッド、洗面台、収納などが備え付けられ、壁紙は淡いピンクで統一され、明るい雰囲気になっている。利用者はそれぞれ、仏壇や、ソファ、テレビなどを持ち込み、自分の空間を作っている。窓からは裏の山や住宅街が望め、開放的である。調査時も読書を楽しみ、自分だけの時間を過ごしていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには本人の名前をトイレには「便所」と掲示し出来る範囲のお手伝い等をしていただき自立した生活が送れるように工夫している。		